

検査ニュース No.169 ①

ご挨拶

平素より佐賀県医師会成人病予防センター業務にご協力及びご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
今回は、「検査項目紹介」及び「検査受託の中止」、「検査内容変更」について、ご案内いたします。

佐賀県医師会成人病予防センター
担当理事 志田 正典

●検査項目紹介

◆Gly m 4 (大豆由来)

Gly m 4 は大豆アレルゲンコンポーネント^{*}のうちの1つで、大豆のクラス2 食物アレルギーの原因物質です。このタイプの大豆アレルギーは、原因がシラカンバやハンノキなどの花粉による吸入感作であり、共通抗原性がある大豆 (Gly m 4) を摂取した際に口腔症状などの様々なアレルギー症状を呈しますが、従来の特異的 IgE (大豆) では、陰性と判定される場合があることが知られていました。しかし、本項目ではこれらの患者さんの多くを陽性として判定することが可能であり、大豆アレルギー診断補助に有用です。

*アレルゲンコンポーネント：アレルギー原因物質から抽出されるタンパク質の中の単一のタンパク質

◆疾患との関連：食餌性アレルギー

◆関連する主な検査項目：特異的 IgE (シングルアレルゲン)

大豆、シラカンバ、ハンノキ

検査項目	検体量 (mL)	容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値 (単位)
Gly m 4 (大豆由来)	血清 0.3	スピッツ	110 ※5	2~4	FEIA (CAP法)	陰性 0.34以下 (Ua/mL)

※5免疫学的検査判断料

◆Hev b 6.02 (ラテックス由来)

Hev b 6.02 はラテックスアレルゲンコンポーネントの1つで、臨床的な特異度が、既存の特異的 IgE (ラテックス) と比較して高いことが報告されています。そのため、従来の特異的 IgE (ラテックス) では、臨床症状がない方を陽性と判定することもありましたが、本項目と組み合わせて測定をすることで、ラテックスアレルギーの診断補助に有用と考えられます。

◆疾患との関連：職業性アレルギー

◆関連する主な検査項目：特異的 IgE (シングルアレルゲン) ラテックス

検査項目	検体量 (mL)	容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値 (単位)
Hev b 6.02 (ラテックス由来)	血清 0.3	スピッツ	110 ※5	2~4	FEIA (CAP法)	陰性 0.34以下 (Ua/mL)

※5免疫学的検査判断料

●検査受託の中止

◆遊離脂肪酸 (NEFA)

(平成 28 年 6 月 30 日ご依頼分をもって受託中止)

案内書 掲載頁	項目コード No.	検査項目	備考
44	35	遊離脂肪酸 (NEFA)	検査試薬販売中止および 保険適用外項目のため

●検体量の変更

◆浸透圧 (血清)

(平成 28 年 6 月 24 日ご依頼分より)

案内書 掲載頁	項目コード No.	検査項目	新	現
43	1121	浸透圧(血清)	血清 0.7mL	血清 0.5mL

※検査内容、報告内容に変更はありません



検査ニュース No.169 ②

●検査内容変更

◆リポ蛋白分画（アガロース法）

（平成 28 年 7 月 1 日ご依頼分より）

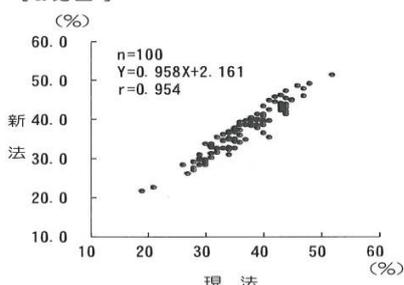
リポ蛋白分画は、現在主にアガロース支持体を用いた電気泳動で行われています。電気泳動法のメリットは一度の検査で全ての種類のリポ蛋白の全体を見渡す事ができるため、リポ蛋白のバランスが崩れているかどうかを一目で確認する事ができ、高脂血症型判定の重要なスクリーニング方法となっています。

今回、現試薬販売中止により、測定試薬及び、基準値、報告範囲を変更いたします。

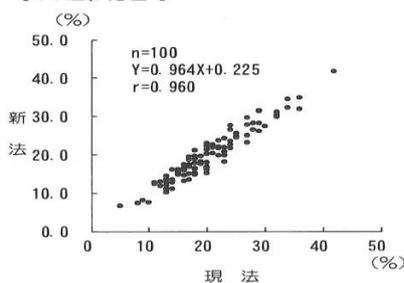
案内書掲載頁	項目コード No.	検査項目	変更内容	新	現
44	1210	リポ蛋白分画 (アガロース法)	基準値 (単位)	α M 26.9~50.5 F 32.6~52.5 PRE β M 7.9~23.8 F 6.6~20.8 β M 35.3~55.5 F 33.6~52.0 (%)	α M 29~50 F 34~53 PRE β M 8~29 F 3~23 β M 30~55 F 33~53 (%)
			報告範囲	0.0~100.0	0~100

【現法と新法の比較】

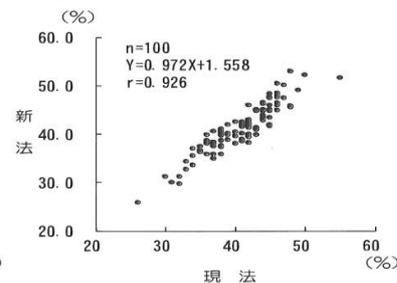
〔 α 分画〕



〔PRE β 分画〕



〔 β 分画〕



◆25-OH ビタミンD

（平成 28 年 7 月 1 日ご依頼分より）

25-OHDは経口摂取あるいは皮膚で産生されたビタミンDの量を反映する指標であり、夏期に高く、冬期に低いといった季節変動があると報告されています。疾患との関連では、ビタミンD過剰摂取、中毒で高値傾向、ビタミンD欠乏症、くる病、骨軟化症で低値傾向を示すと報告されています。

今回、25-OH ビタミンDは、測定法を明記した「25-OH ビタミンD (RIA)」と変更いたします。

案内書掲載頁	項目コード No.	検査項目	変更内容	新	現	備考
47	1351	25-OH ビタミンD	項目名称	25OH ビタミンD(RIA)	25OH ビタミンD	現試薬販売中止に伴い、測定試薬を変更いたします。
			検査方法	RIA 固相法	RIA2 抗体法	
			基準値 (単位)	なし (ng/ml)	7~41 (ng/ml)	
			報告範囲	4未満、4~99900000	5以下、6~99900000	

◆BFP（塩基性フェトプロテイン）

（平成 28 年 6 月 24 日ご依頼より）

BFPはヒト胎児の血清、腸および脳組織抽出液を用いて同定した分子量 5.5 万の癌胎児性蛋白です。BFPは健康ヒト血清や腸などの組織には見いだされませんが、泌尿器癌、生殖器癌、消化器癌や肺癌など各種癌組織には広範囲に分布し、血中に移行する事から腫瘍マーカーとして用いられています。血清中のBFPの測定は、癌の診断や症状経過、治療効果の判定に有用です。

案内書掲載頁	項目コード No.	検査項目	変更内容	新	現	備考
57	2314	BFP (塩基性フェト) プロテイン	基準値 (単位)	75未満 (ng/ml)	75以下 (ng/ml)	基準値を見直し参考文献から試薬メーカー設定値へ変更いたします。